

今月の聖句

『いずれにせよ、わたしたちは
到達したところに基づいて進むべきです。』
フィリピの信徒への手紙 第3章16節

◎6月の予定

- 1日(金) 観劇(中)
- 3日(日) 私小情報フェア(横浜)
- 4日(月) 教育実習(中) 6月28日まで
- 5日(火) 尿検査(二次)
- 5日(火)～7日(木) 転入体験学習①(小)
- 12日(火) 音楽会
- 13日(水) 一斉引き渡し訓練(小・中)
- 14日(木) 校内研修会
- 16日(土) キ同盟小学校教職員協議会
- 21日(木) 教務委員会
- 22日(金)～23日(土) 森のおとまり(小1～小3)
- 25日(月) 森のおとまり代休(小1～小3)
- 27日(水)～29日(金) 期末試験(中)
- 28日(木) 教職員協議会
- ◎7月の予定
- 5日(木) 聖書教室
- 7日(土) 学校説明会①



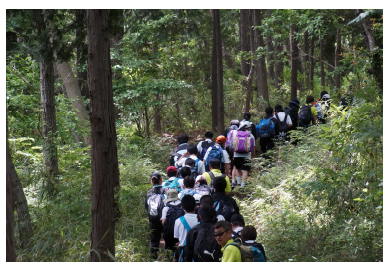
春の遠足 楽しく行ってきました

小学校1・2年
(花菜カーテン)

小学校3～6年
(江ノ島)



中学校 (秦野・弘法山)



モーニングサイド・カレッジ来校



50名が来校され、アメ
イシング・グレイスやピ
リフなどとても素晴ら
しい歌声を披露してくだ
さいました。コンサート
後は、一緒に昼食をとり、
海に出かけるなどして過
ごしました。

今年は、夏の暑さを感じながらの6月にな
りそうです。新学期から二か月が過ぎ子
どもたちの取り組みや様子に、日々成長を
する姿が様々なところで感じられるので
はないでしょうか。

6月は、まず中学校の観劇からスタート
です。1日(金)に劇団四季の『ライオン
キング』を鑑賞します。

＜音楽会＞ 12日(火)

3・4時間目に海の見えるホールで
行われます。今年はどうのような感動があ
るのか今からとても楽しみです。保護者
の方は、昨年同様に関後半の入れ替え制
になりますので、ご了承下さい。今年も教
職員から一曲ご披露させて頂きますので
そちらもお楽しみに。

＜一斉引き渡し訓練＞ 13日(水)

今年も、大磯町全体で行う「引き渡し
訓練」に本学園も参加致します。訓練で
はありますが、いかなる時にも対応をで
きるように、日ごろからご家族で緊急の
場合を想定し、確認をして頂ければ幸い
です。よろしくお願い致します

＜森のおとまり＞ 22日(金)～23日(土)

小学校一年生から三年生で『森のおと
まり』が行われます。みんなで協力して、
カレーやナンを手作りします。大磯町の
ゆるキャラ【いそべえ】も遊びに来てく
れます。『自分で、できた』が増える二
日間になるよう楽しんで良い思い出を
作ってほしいです。



幸せになれるには、

学園長 小川 正 夫

昨年百五才の天寿を全うされた日野原重明先生のことはステパノ便りでも何度か取り上げていますが、先日こんな言葉を残しておられたことに気付きました。

七歳の時、母親が危篤に陥り、日野原先生は幼い心で必死に祈り続けていたそうです。

「神様、どうぞお母さんを助けてください」ではなく、それは「神様、どうかお母さんを救おうとしてください、この安永先生（母親の主治医）を助けてあげてください」だったそうです。幸いお母さんは危機を逃れ一命をとりとめたそうですが「僕が医師になろうと決心したのはあの時です」と聞いたことがあります。

日野原先生は若いころ、あまり丈夫な方ではなかったようですが、大学医学部進学に失敗したときは一晩中泣き明かしたそうです。ご自身療養生活を経験したり、医師になつてからは、多くの患者さんを自分の家族の様に見守り、聖ルカ国際病院の院長になられてからも、いろいろなところに出向き、ことに子ども達に命の大切さを情熱的に語り掛けていました。

日本赤軍派にハイジャックされた航空機に乗り合わせていたり、オウム真理教信者による地下鉄サリン事件の被害者救済など誠の人に

生の達人として多くの人達に影響を与えてられました。

先生はしみじみと私達に語り掛けます。

「順風満帆の人生を送ることができる人はごくひと握りの人だけだと思います。人生には、辛く悲しい出来事、思い通りにならないことが沢山あります。むしろそのほうが多いかもしれない。本気で泣いた経験のある人はまた、人の心の痛みがわかるのです」。

さて、私達のステパノ学園の子ども達は毎朝の礼拝で必ずこのように祈っています。

「天のお父様。私達が毎日、思いと言葉と行いによつて、過ちを犯していることをお許してください。私達が神様の教えを守っていくことができるように勇気をお与えください」

続けて「天のお父様、いつも私達を愛し、いろいろなことを教えて下さる先生方をお恵みください。そして、いつも健康と主のお導きをお与えください。」

「おめぐみ深い天のお父様、私達の家族を守りください。必要なものを与えられ、安らかにいつも変わらない幸いな日々を過ごすことができそうです」

「哀れみ深い天のお父様、困っている人達（ことに親を失った人、体の不自由な人、身寄りのない人、家や食べ物が無くて困っている人など）をお助け下さい。私達も困っている人達の為に少しでも良い働きが出来ますように」彼らは自分以外の人達の為に祈ることができる素敵な子ども達です。

私達は誰もが幸せでありたいと思いますが、幸せの基準は人によっても文化や国民性によっても異なると思います。学生時代に読んだ哲学者アランの「幸福論」にこんな言葉がありました。「幸福な人は幸福だから笑っているわけではなく、笑っているから幸福になれるのだ」「自分が幸せだと思っている人が幸せなのだ」「また「他者に寛容な人は幸福度が高い」と言った人もいます。

2018年度版国連世界幸福度報告書の中に国民の幸福度ランキング1位はフィンランド、日本は54位だそうです。

子供のクイズに幸せの反対も幸せ（漢字をさかさまにしても幸せという漢字になる）があります。無関心の反対は愛という考え方も幸せにつながります。

自分の心が負の感情から免れることが幸せにつながると思います。負の感情は喜びの感情の様に自然に湧き出で来るものというよりも、自分の心で創りだしていることが多いようです。自分の心が傷ついたりすると穏やかな感情ではいられないのですが、自分が気付かずに他者の心を傷つけていることには気が付かないことがあります。負の感情とは、人を疑ったり、無視したり、困らせたり、騙したり、恨んだり、約束を破ったり、陰で悪口を言ったり、羨んだり、嘘をついたり、虐めたり、意地悪したり、自尊心を傷つけたり、容姿を笑ったり、こんなにたくさんある負の感情をなくすと幸せになるようです。

かけがえのなさ

教諭 米原 佑樹

三月、礼拝で全校児童生徒の前でお話する機会を頂きました。内容は二十歳の頃にマザーテレサの「死を待つ人の家」でボランティアをした経験について。「いつか教師になったら子どもたちに話したい」と思っていたことだったので、話し終えた後に子どもたちが駆け寄って口々に感想を述べてくれた時には、とても感慨深いものがありました。

それから二か月程経った頃でした。自宅でパソコンを開くと、シリア人の友人が助けを求めているのが目にとまりました。国全体が非人道的な攻撃に晒される中、彼女の友達とその幼い子どもがトルコに逃げるため早急にお金が必要だという内容でした。その額三十万円。私は協力したいという想いを抱きながら、正直なところためらってしまいました。個人宛としては相当大きいその金額に不安を感じてしまったのです。その親子には申し訳ないけれど、シリア全体のことを考えればそのお金は大きな団体に回した方がいいのでは…とも考えました。しかしその時、三月の話の準備をしている時に出会ったマザーテレサの言葉を思い出しました。

マザーテレサは六十年以上もの間、その日食べる物もない人たちに寄り添い続けました。その姿に世界中の人が感銘を受けましたが、

中には「政府に働きかけて社会変革を推進してはどうか」と提案する人もいたそうです。きつと、それ程の影響力を持つマザーテレサが政府に訴えかければ、より多くの人が救えて効果的だと考えたのでしょうか。しかしマザーテレサはそれには賛同せず、「私にとって大切なのは、群衆としての人々ではなく、個々の魂なのです」とだけ答えたそうです。またマザーテレサは、一つひとつの言動に込められた想いを何よりも大切にし、余り物の寄付はあまり喜ばなかったといいます。「私たちが仕えている貧しい人たちは、あなた方の隣れみも、見下すような態度も必要としていないのです。彼らが必要としているのは、あなた方の愛と親切なのです」というマザーテレサの言葉は、目の前の人が持つ魂に向き合うことがいかに尊いことか語りかけてきます。

思えばシリア人の友人は以前、「一番辛いことは、攻撃される事でも、人を亡くす事でもなく、こんな状況なのに世界の人たちが関心を向けてくれないこと、心を寄せてくれないことだ」と話していました。そんな状態にある彼女を思えば、より効果的な方法を考えるあまり目の前の助けを求める友人の支援を断ることは間違っているように思えてきました。私は彼女に送金の連絡をし、自分も知人に呼びかけをすることにしました。どれほどの反応があるか不安でしたが、すぐに多くの声がかかり、何と一週間で目標の金額が集まりました。彼女が東日本大震災の時に東北でボ

ランティアしていたことを紹介したことも大きかったようです。中には三日前に出産したばかりで、自分のご褒美のためにとずつととっていた一万円をそのまま送金してくれた人もいました。

広い視野を持って動くこと、先を見通してより効果的な方法を考えることはもちろん大切です。しかし、どんな大義名分を持つて考えを巡らせても、目の前の一人の人が持つかけがえのなさに向きあえなければ、願った結果からは遠のいていくばかりでしょう。ふと学校での自身のふるまいを考えれば、似たような失敗をしてはいないかと自問せずにはいられません。クラス全体を考えるあまり、一人ひとりの子どもの想いをないがしろにしてはいないだろうか。仕事をしながらや別のことを考えながらではなく、しっかりと自分の時間を割いて子どもの話を聞いているだろうか。まずは子ども一人ひとりのかけがえのなさ、その子の持つ一瞬一瞬のかけがえのなさに敬意を払うこと。どんな願いも教育も、全てはそこから始まっていくのかもしれない。私はまだまだ至らない点ばかりで、子どもの心に寄り添えなかったことを反省する日が少なくありません。しかし、マザーテレサの話をした時に駆け寄ってくれた子どもの顔を思えば、下を向いてはいられません。忙しく過ぎていく毎日のなかにあっても、眼の前のことに向き合う一瞬一瞬を、子どもたちと積み重ねていきたいと思えます。

国語ステップでスキップ

教諭 草山 広子

聖ステパノ学園小学校の国語ステップアップタイムの授業は、二〇〇五年四月に、週一回の一、二年生合同授業から始まりました。校長先生からのおすすりめもあり、それまでのことば遊びの経験から国語の学習につながるものはないかと取り組みを始めました。

詩人の谷川俊太郎さんが、「ことば遊びは、山の裾野のようなもので、裾野が広がれば広がるほど、山は高くなるというものです」と表現されていたことから、これを国語教育に生かしていければ……という思いをもっていました。教科書を学習する中で、豊かな感性は欠かせません。そこで、この国語ステップの授業が少しでも子どもたちの裾野を広げる役割を果たせないかと考えました。授業の間だけでなく、いつも身近なところにありたいと願いつつ、子どもたちがふとした時に、詩のフレーズが歌うように口ずさむことができたらいなという思いで始めました。

その後、この取り組みが広がり、全学年の国語ステップを担当することになりました。新たに三年生以上の授業を組み立てることにしたので、国語の教科書を読み返し、各学年に合った教材を探すことにしました。一、二年生の楽しいステップらしさを残しつつ、中学年・高学年に合った教材は何か、一回一

回の授業で感触を確かめながら模索を続けました。二〇一五年度からは、各学年の国語担当の先生方に毎週の教材と学習プランを打ち合わせして授業をして頂いています。授業後は先生方の感想や工夫をヒントに試行錯誤を繰り返しました。そして、昨年度からは、子どもたちに人気のあった教材を再編成し、テキストにまとめて学習を行っています。

内容は、詩・短歌・俳句・クイズ・お話・早口言葉など様々です。一人で、グループで、あるいは、クラス全員で、楽しく遊べるように教材を提供していきたいです。教材は、事前に子どもたち一人一人の様子やクラスの雰囲気に合わせてながら、授業の流れやワークシート作りなど毎年各学年の先生方と相談しながら進めています。

低学年では、詩やお話の世界に入って、言葉と仲良く遊べるように、簡単な工作を取り入れています。例えば、二年生の四月は、工藤直子さんの詩「おしゃべり」です。アマガエルとシジミチョウが出会い、別れていきます。最後の二行は、「一瞬のような永遠のような／偶然のような必然のような出会い」で結ばれています。パクパク口の動くアマガエルとシジミチョウを作って、「出会い」を再現させ、会話を楽しみます。

中学年では、ことばのリズムや日本語の音韻を楽しむもの、また、自然の不思議を題材にしたものを選びました。

高学年は、生きるということ、自分を見つ

め、未知の世界に目を向けられるような作品を探しました。

さて、私は、小学校一年生の副担任として今年度スタートしました。この二か月は、一年生にとつて、学校生活に慣れる大切な時期でした。毎日が始めての連続でしたが、この頃では、一年生の顔になってきました。クラス便りの題名も、自分たちで案をだして、「ぴかぴかの一年生」に決まりました。

一年生五月の国語ステップは、西村祐見子さんの詩「しんこきゅう」です。「木は／しんこきゅうしている／うでをのぼして／そらを見あげて……」声に出して読んだ後、木の気持ちになって、みんなで深呼吸してみました。次のページは、小鳥が止まっている輪郭だけの木の絵。「色を塗っていいですか」「どうぞどうぞ」。木の周りは、小鳥だけではなく、一年生の大好きなものがたくさん書き込まれました。それから、緑と茶色の画用紙で木を作りました。木に顔や木の実を描いたり、根っこをつけ足したりと思い思いの木ができました。

元氣いっぱいぴかぴかの一年生も、学年が上がるごとに、時には悩み、立ち止まることもあるでしょう。そんな時、元氣になれる言葉がそばにあったら……。それが、国語ステップで出会ったとしたら……。ステパノの子どもたちが、楽しい所へスキップしながら出かけるような気持ちで、国語ステップのテキストのページをめくってくれたら嬉しいのです。

気持ちを考える

非常勤講師 能條 貴大

皆さんは映画をどのくらい見ていますか？また、どのようなジャンルの映画が好みでしょうか？アクション、コメディ、ホラーなど、映画には様々なジャンルがあります。また、年代によっていろいろな特徴があり、それぞれの年代に流行った映画を見比べてみることも面白いです。

映画は十九世紀に生まれて以降、大きな発展を遂げてきた新しい娯楽です。私たちの視覚、聴覚に訴えかけ、非日常の特別な体験をもたらしてくれます。個性的で魅力的な登場人物、様々な効果が駆使された舞台や映像、物語を盛り上げる壮大な音楽、色々な工夫が施されて映画は作られています。

私は子供のころからたくさん映画を見てきました。が、何度繰り返し見ていても面白い、お気に入りの映画が数本あります。それらの映画は共通した特徴を持っていて、その特徴を満たした映画はいつ見ても新鮮な感動を与えてくれます。その特徴とは、登場人物の気持ちがとても丁寧に描写されているということです。心理描写の巧みな映画は、音楽や映像との相乗効果で、ストーリーに深く入り込むことができ、自然と話を理解することができます。

私の好きな映画の一つに、実話を元にしたお話があります。日本でも大ヒットした映画で、事故で体が不自由になった富豪と、介護人として雇われた貧困層の青年との交流をコミカルに描いた映画です。この二人の主役の表情の変化がとても豊かで魅力的で、互いに遠慮せず、対等な立場を築いていきます。この作品の興味深い点は、環境や立場の全く異なる二人が、本音で語り合い絆を深めていくところにあります。

お互いに遠慮をせず、本音で語り合うということは、本来とても難しいことだと思えます。「ヤマアラシのジレンマ」という心理学の用語があります。二匹のヤマアラシが互いを温めあうために体を寄せ合おうとしますが、近づきすぎるとお互いの針が相手に刺さってしまいます。しかし、離れてしまうと寒くなってしまう。結局は、お互い傷つかず、寒くもない距離に収まってしまおうというお話です。これはそのまま人間関係に置き換えることができ、お互いに傷つけないために適度に距離

を置いてしまい、深く干渉し合うことができない状態になってしまおうことを指しています。この話は、距離を取ってしまうことで深く相手を知ることのできないというネガティブな面と、適切な距離感を持つて人間関係を円滑にするというポジティブな面を持っています。映画の中の二人は、適切な距離感から一歩深く入ったところで友情を生み出しました。

大人になると、なかなか本音を語ることが難しくなってきます。相手の気持ちを考えたり、立場を考えたりすることに固執するあまり、話したい言葉が出てこない。遠慮をするという気持ちがあふれすぎていきます。自分が子供だった時のことを思い出すと、気持ちをぶつけ合うことができるのは、子どもの特権であると考えることがあります。相手の気持ちを考えつつ、自分の意見もきちんと言えような大人になれるように見守っていききたいと思います。



「小学校」五月十一日は、春の遠足でした。
一・二年生は神奈川県立花と緑のふれあいセ
ンター（花菜ガーデン）へ、三・六年生は、
江の島方面に行ってきました。

小一 T・I
ばらがさいていたのしかった。

小一 M・U
あいすがおいしかった。

小一 A・T
おべんとうがおいしくて、たのしかった。

小一 G・T
かわにめだかなどがいて、ぼうけんみたい
でたのしかった。

小一 N・H
みはらしでつきからふじさんがみえて、き
れいだった。

小二 N・I

今日、遠足でかなガーデンに行つてさんさ
くをしました。それで、おひるになってごは
ん食べました。ぼくは、マシユマロとゼリー
を食べました。それでバスにのつて電車にの
つて帰りました。おやつを食べたことがうれ
しかったです。



小三 T・O
きのう遠足で江の島水ぞく館へ行きました。
エイとクラゲを見ました。エイは、口をパク
パクしてました。クラゲは、いっぱいいてす
ごかったです。サムエルコックキングズンに行
きました。広くつて海が見えました。すてき
でした。シーキャンドルにエレベーターでの
ぼりました。おかしこうかんをして、トンビ
に気をつけながら食べました。楽しかったで
す。

小四 S・K

今日は、遠足でした。ぼくは6ぱんでした。
びつくりしたことがあります。江の島水族館
ではじめてサメをさわったのです。表面がと
てもザラザラで、たまごをさわりました。か
たいと思つていたら、ぜんぜんちがいました。
プニプニで、やわらかかったです。楽しかつ
たです。



小五 S・O

まず、今日は新江ノ島水族館で、イルカの
ショーを見ました。イルカがジャンプするく
るかいてんをして、水の中にいっせいに、3
びきがとびこみました。お兄さんもイルカと
二人でいっしょに、5メートルくらい上の高
さからいっきにとびこんで、水の中に入りま
した。自分もそれを見て、「すごい、本当に上

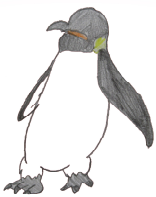
手だね。さすが、やっぱりきたえているんだ
ね。」と思いました。イルカショーがおわつて、
あつというまに江ノ島とう台まで来ました。
歩いてやつと上まできたところで、ごはんを
食べました。ごはんは、とってもおいしかつ
たです。今日は、一日本当にぜんぶ楽しい江
ノ島遠足でした。

小六 H・A

今日は春の遠足で江ノ島に行きました。私
は班長という役目がありました。三・六年生
の班をまとめる、という重大責任で、とても
どきどきしていました。

新江ノ島水族館に着きました。建物の中に
入った時に潮のにおいがしました。そして、
様々な魚がいました。イルカショーを見るこ
とになりました。アザラシから始まりました。
動きがとてもかわいく頭がいいなと思いまし
た。メインのイルカが出てきました。イルカ
の合図を教わり合図を出しました。少し水が
かかったけど、楽しかったです。そして、シ
ーキャンドルに行きました。道は、とても遠
かったけど、江ノ島の風景は、とてもきれい
でした。

私は、一番江ノ島散策がとても楽しかった
です。班長として行った遠足は、とても楽し
かったです。



「中学校」 春の遠足は、鶴巻温泉駅から歩いて、弘法山を目指しました。最後は恒例の温泉に入り、とても楽しい一日となりました。

中一 S・K

5月11日は、遠足がありました。弘法山、権現山などへ行きました。

小田急線の鶴巻温泉駅で降り、歩いていきました。最初は、普通の道でした。でも、しばらくすると、急な坂道があり、少し疲れてしまいました。

山道に入ると、急な坂、階段、木の根などがあり、歩くのが大変でした。普通の平らな道もありましたが、山道がとても長かったのです、足が棒になりました。

でも、普段行かないようなところに行き、自然を体験できたので、良かったです。また、普段見かけないような植物があったので、それも面白かったです。

権現山でお弁当などを食べた後、山を下りました。下りは、上りのときよりは楽でしたが、急で、そのうえ、木の根があったので、歩きづらかったです。

しばらくすると、今回温泉に入る「万葉の湯」にたどり着きました。ここでは、3種類の温泉がありました。この中では、ひのき風呂が一番気持ち良かったです。

今回の遠足は、たくさん歩き、とても疲れましたが、達成感もあり、とても良かったです。楽しかったです。

五月十一日に春の遠足があり、今年は秦野の山を歩いていきました。中一は小田原の酒匂川を、中二は箱根の山を歩きました。

中三 R・K

遠足の流れは、まず電車で小田原駅まで行きました。春の遠足ではいつも電車に乗って小田原方面に行きます。そして今年小田原から小田急線で鶴巻温泉駅まで行き、そこから弘法山まで山の中を歩きました。上り坂や階段が急だったり、湘南平に行くときみたいな道に似ていました。弘法山公園でいったん休憩をとり、そこからまた少し権現山まで歩きました。ここでは緩やかな階段がたくさんありました。権現山公園で弁当（昼食）を食べました。やっぱり自然が良かったです。

このあとは風呂に入りました。春の遠足では、風呂に入るのも特徴です。万葉の湯は最高に気持ち良かったです。楽しい遠足になりました



5月22日に、アメリカからモーニングサイド・カレッジの皆さんが来校され、コンサートを開いてくださいました。

今日はモーニングサイド・カレッジの生徒達が我学園に来校しました。モーニングサイ

中二 A・M

ド・カレッジの生徒は金髪の方が多かったです。それに女性たちはみな美しかったです。モーニングサイド・カレッジのトム・ポールソン准教授はめがねをかけていて、体が大きく、足も大きかったです。けれども、足が大きいために我学園の来客用スリッパが小さく、かかとがスリッパからはみ出していました。

昼食の時、私はポールソン氏とミス・マリールと同じ班になりました。ミス・マリールはグレーがかかった水色のとても美しい瞳をしていました。私と同じ班の少女がミス・マリールの瞳がすごくきれいだと感じていました。

ポールソン氏は、農学を教えているそうです。日本の食べ物では焼きが好きなんだそうで、写真も見せてくれました。それから彼は高校時代にバスケットボール、水泳、野球、サッカーをしていたそうです。

私は少し悔い改めました。

私がもう少し英語の勉強をまじめにしていたら、きっと色々な事を楽しく話せたのだと思うからです。私はもう二年生なので、受験のために少しでも英語を勉強しようとして今日この日に思いました。





エリザベス・サンダース・ホームの歴史はきつと皆さんご存知でしょう。今回はホームの「今」に焦点を当ててみました。

* * *

SA担当の早田さんは二十三年にわたって児童福祉の現場で活躍されているベテランです。早田さんの案内で、ホームにお邪魔しました。

エリザベス・サンダース・ホームは児童福祉法上の児童養護施設です。敷地は広く、澤田美喜先生の住まいだった旧園長邸やリトリートハウス、子どもたちが遊べるグラウンドもあります。

現在七十名ほどの子どもが九棟に分かれて住んでいます。玄関を入るとまず広いリビングがあります。キッチンでは、給食室からの食事を温めなおしたり配膳したりして食事をします。各棟七〜十一名の定員で、男女一人ずつの職員が担当します。洗濯、食事の片づけ、掃除など、家庭のお父さん、お母さんと同じように家事をしています。リビングには、約束事や予定などが貼られていて、どこの家でも見かけけるような光景だと思いました。部屋もほとんどが個室です。大きな風呂だけではなく、小さなユニットバスもありました。

古い棟ではパーテーションを使うなどの工夫をしてプライバシーに配慮しています。近い学年の子どもたちが大人数で暮らすのではなく、少人数だけれどもいろいろな年齢の子どもがきょうだいのように暮らし、お父さん、お母さんのように職員がいて、一般的な家庭に近づけようとしていることがわかりました。

職員は交代で宿直があり、年齢も背景も様々な子どもたちの自立支援計画を個別に立てながら支援しています。専門的な視点が求められるのはもちろん、心身共にハードな仕事です。「燃え尽きてしまいませんか？」と早田さんに質問したところ、三棟をブロックとしてブロックリーダーを配置しているほかに、全体を見る職員も三名、スーパーバイザーの心理士もいて悩みを相談できる体制を整えているそうです。

普段はとても忙しそうですが、三か月に一回は職員が子どもと一対一で話をして悩みや希望を聞いています。

SAに望むことを早田さんに伺ってみました。「もし遊びに行くことがあったら、ごく日常の家庭の様子を見せてください。子どもが家庭のイメージを持つことができます。ホームの子も一緒に育てていただき、職員も保護者なのだと考えて下さればと思います。」

私たちと同じように子育てに奮闘している職員の方たちの姿を知ることができ、大きな収穫でした。(来月号に続く)

STEPHEN'S NEWS

【表彰】

泳力検定	5級	中3	S・U
日本漢字能力検定	準2級	中3	S・U

【学校説明会のお知らせ】

7月7日(土) 10時
本学園 海の見えるホールにて
皆様お誘いの上、ご参加ください。

※お詫びと訂正※

5月号の表彰で誤りがありましたので、左記のとおり訂正しお詫びいたします。

〈第7回大磯ちびっこ駅伝〉

低学年の部	第10位
高学年の部	第9位

【編集後記】

外に出かけるにはとても良い気候になりました。子ども達は校外学習で海に出かけて自然に親しむ機会をもっています。いろんな発見や驚きがあります。(K)

代表者 学園長 小川 正夫
発行者 ステパノ学園小学校・中学校
ステパノだより編集委員会

〒255-0033 神奈川県中郡大磯町大磯八六八

TEL 0463-61-1298
FAX 0463-61-9739
<http://www.stephen-oiso.ed.jp>

二〇一八年六月四日(月)発行 第222号